

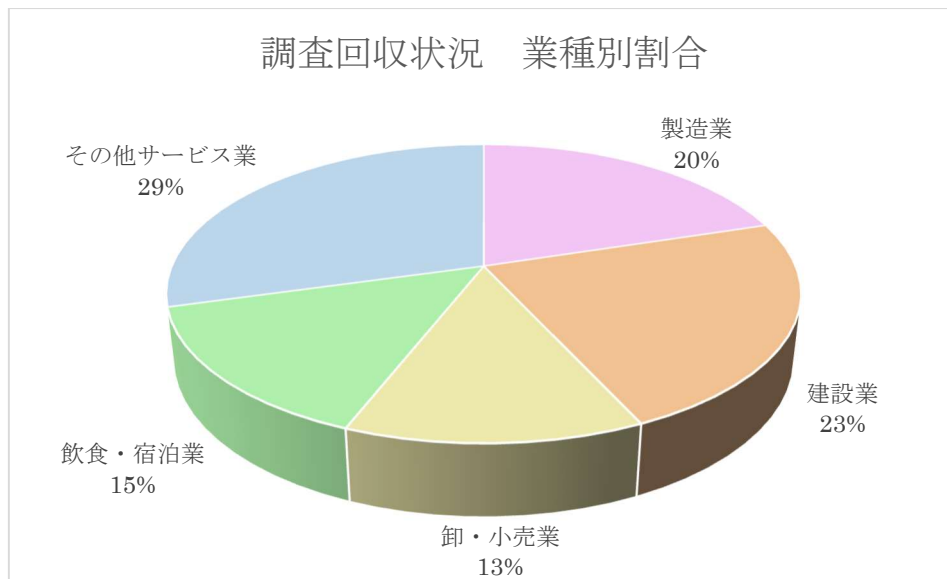
## 千歳市景気動向調査結果

調査期間：2026年1～3月の実績と2026年4～6月の見通しについて調査

調査方法：調査票を送付し、FAXまたはWEBにて回収

調査対象：千歳商工会議所会員及び特定商工業者

回収状況：109社



### DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは

増加・上昇・好転の企業割合から減少・降下・悪化の企業割合を差し引いた値のことです。

この数字がプラスかマイナスか、また、その大きさにより景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

景気が「良い」の中には、「良いけど悪くなりつつある」などの考えも含まれるため、**業況判断DIは、景気の方角性を表すもの**です。

数値が上昇していれば、良い景況感（景気が良いと感じる企業の割合が増えたこと）を意味します。

本調査では前期（2025年10～12月）と比較した今期（2026年1～3月）の実績及び、今期（2026年1～3月）と比較した来期（2026年4～6月）の予測、今期（2026年1～3月）と前年同期の比較を掲載しています。

## 《 全体の景気動向 》

### 【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)【前年実績】			来期予測 (4～6月)
業況	▲5.4	→	▲4.6	【▲6.6】	↓	▲11.9
売上	3.1	↓	▲3.7	【 2.5】	↑	1.8
採算	▲15.4	→	▲16.5	【▲14.9】	↓	▲22.0
原材料	▲60.8	↓	▲69.7	【▲71.9】	→	▲74.3
資金繰り	▲8.5	→	▲4.6	【▲13.2】	→	▲9.2
労働時間	▲0.8	→	1.8	【▲1.7】	→	1.8
雇用状況	25.4	→	28.4	【 33.1】	→	32.1

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印（↑・↓）で表示  
5ポイント未満の推移は横ばい矢印（→）で表示

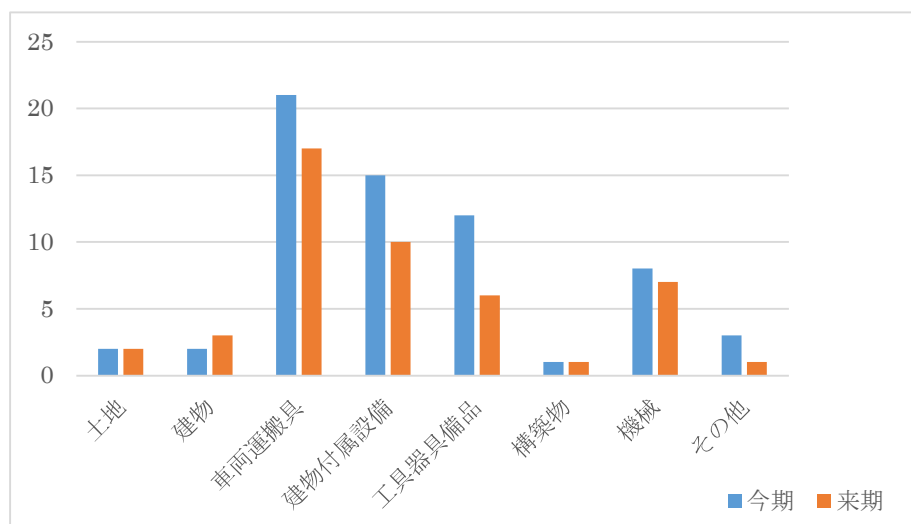
### 【設備投資調査】

前期（10～12月）設備投資をした企業は36.2%

今期（1～3月）設備投資をした企業は43.1%

来期（4～6月）設備投資を計画している企業は40.4%

設備投資をした（する）企業のうち投資内容は以下の通り。



## 《 製造業の景気動向 》

### 【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)【前年実績】		来期予測 (4～6月)
業況	▲5.3	→	▲4.5 【▲47.4】	→	▲4.5
売上	▲15.8	↑	4.5 【▲15.8】	↑	31.8
採算	▲10.5	↑	▲4.5 【▲31.6】	→	▲4.5
原材料	▲73.7	→	▲72.7 【▲73.7】	→	▲68.9
資金繰り	▲10.5	↑	▲4.5 【▲21.1】	→	▲4.5
労働時間	▲21.1	↑	13.6 【▲15.8】	→	13.6
雇用状況	21.1	↑	27.3 【26.3】	↑	36.4

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示  
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

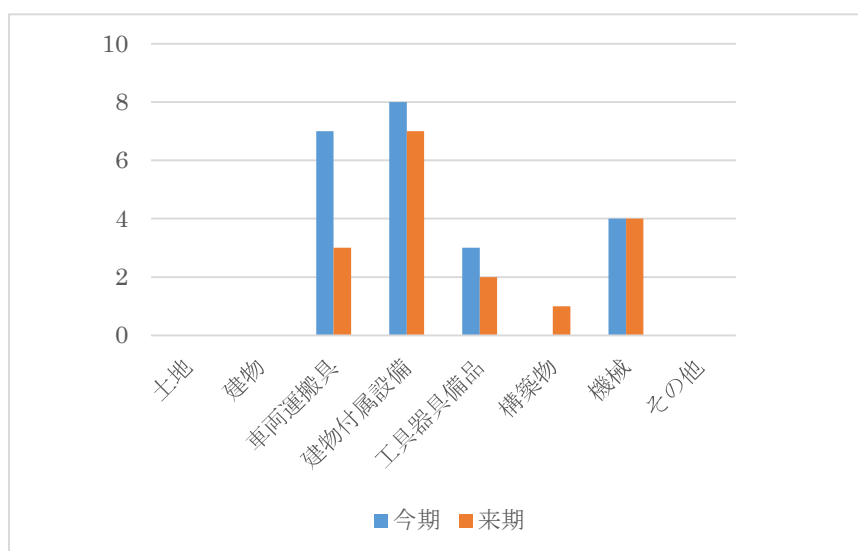
### 【設備投資調査】

前期(10～12月)設備投資をした企業は47.4%

今期(1～3月)設備投資をした企業は72.7%

来期(4～6月)設備投資を計画している企業は68.2%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



## 《 建設業の景気動向 》

### 【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)【前年実績】		来期予測 (4～6月)
業況	4.0	→	8.0 【15.4】	↓	▲8.0
売上	12.0	→	8.0 【▲7.7】	↑	100.0
採算	▲8.0	↓	▲20.0 【▲23.1】	↓	▲36.0
原材料	▲68.0	→	▲68.0 【▲76.9】	↓	▲76.0
資金繰り	▲8.0	↑	0.0 【▲11.5】	↓	▲20.0
労働時間	4.0	→	0.0 【▲7.7】	→	4.0
雇用状況	52.0	↓	40.0 【53.8】	→	44.0

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印（↑・↓）で表示  
5ポイント未満の推移は横ばい矢印（→）で表示

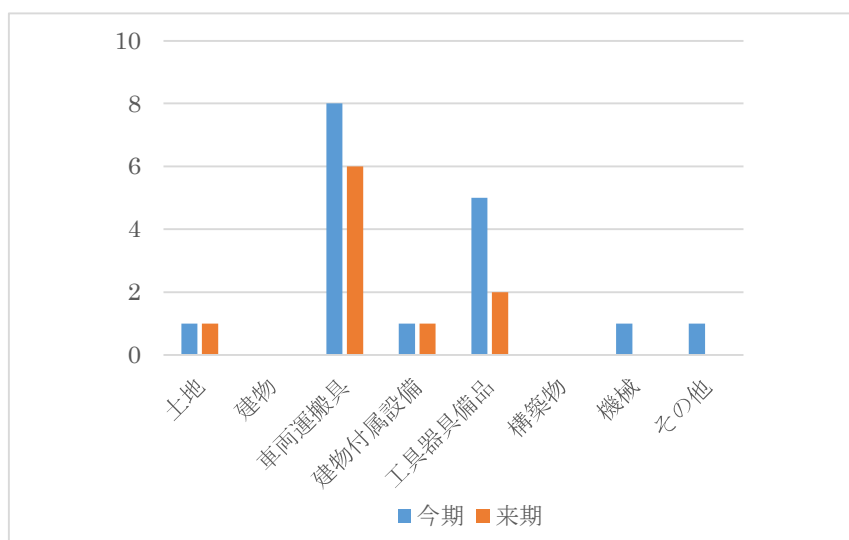
### 【設備投資調査】

前期（10～12月）設備投資をした企業は36.0%

今期（1～3月）設備投資をした企業は44.0%

来期（4～6月）設備投資を計画している企業は28.0%

設備投資をした（する）企業のうち投資内容は以下の通り。



## 《 卸・小売業の景気動向 》

### 【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)【前年実績】		来期予測 (4～6月)
業況	▲35.3	↑	▲7.1 【▲9.1】	↓	▲57.1
売上	▲41.2	↑	▲14.3 【▲9.1】	↓	▲50.0
採算	▲41.2	↑	▲28.6 【 0.0】	↓	▲50.0
原材料	▲70.6	↑	▲64.3 【▲90.9】	↓	▲71.4
資金繰り	▲35.3	↑	▲14.3 【▲36.4】	↑	▲7.1
労働時間	5.9	↓	▲7.1 【 18.2】	↑	0.0
雇用状況	11.8	↑	24.1 【 27.3】	→	28.6

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示  
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

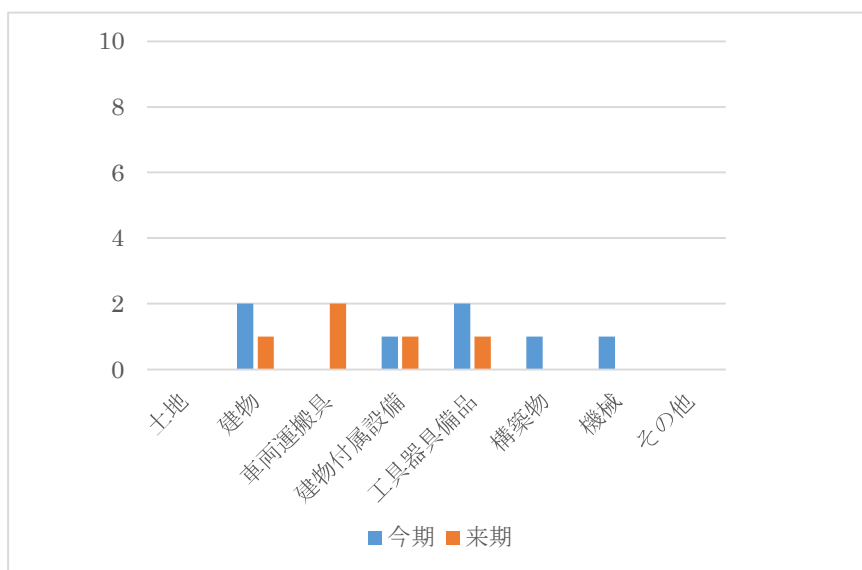
### 【設備投資調査】

前期(10～12月)設備投資をした企業は23.5%

今期(1～3月)設備投資をした企業は28.6%

来期(4～6月)設備投資を計画している企業は28.6%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



## 《 飲食・宿泊業の景気動向 》

### 【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)【前年実績】		来期予測 (4～6月)
業況	0.0	↓	▲25.0 【▲7.1】	↑	▲18.8
売上	23.8	↓	▲25.0 【0.0】	↑	0.0
採算	▲23.8	↓	▲31.3 【▲14.3】	→	▲31.3
原材料	▲100.0	↑	▲93.8 【▲92.9】	↑	▲87.5
資金繰り	▲4.8	↓	▲12.5 【▲14.3】	→	▲12.5
労働時間	4.8	↓	▲12.5 【21.4】	↓	▲18.8
雇用状況	23.8	↑	31.3 【35.7】	→	28.1

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示  
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

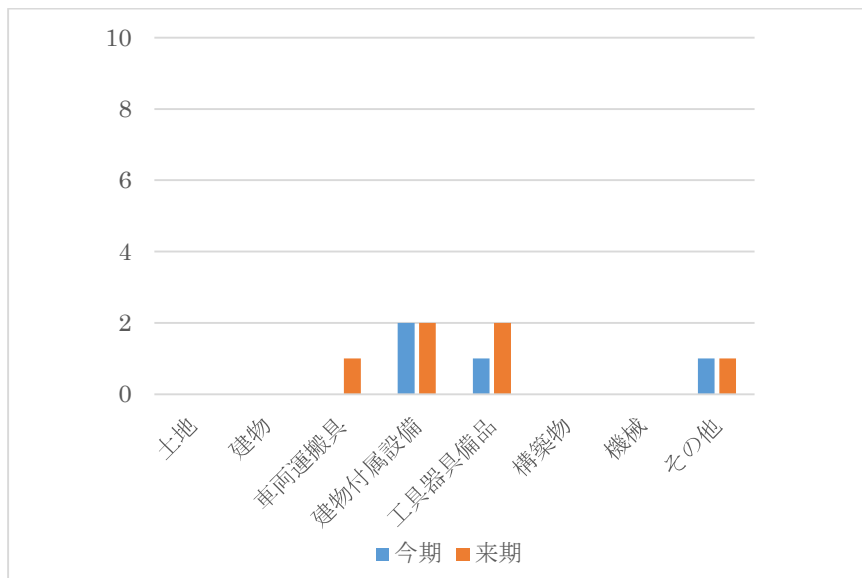
### 【設備投資調査】

前期(10～12月)設備投資をした企業は28.6%

今期(1～3月)設備投資をした企業は40.6%

来期(4～6月)設備投資を計画している企業は40.6%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



## 《 その他サービス業の景気動向 》

運送・生活関連サービス・観光関連サービス・理美容・不動産・その他が含まれます

### 【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)【前年実績】		来期予測 (4～6月)
業況	▲2.1	→	▲3.1 【▲2.0】	↑	3.1
売上	0.0	→	▲3.1 【17.6】	↑	15.6
採算	▲8.3	→	▲9.4 【▲7.8】	→	▲6.3
原材料	▲31.3	↓	▲59.4 【▲58.8】	↓	▲71.9
資金繰り	0.0	→	0.0 【▲5.9】	→	▲3.1
労働時間	0.0	↑	6.3 【▲3.9】	→	3.1
雇用状況	18.8	↑	31.3 【25.5】	→	28.1

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示  
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

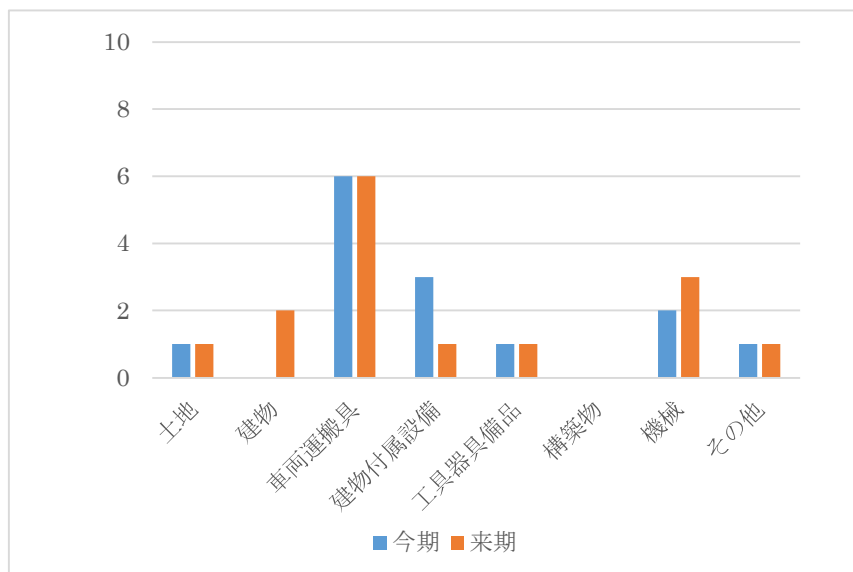
### 【設備投資調査】

前期(10～12月)設備投資をした企業は39.6%

今期(1～3月)設備投資をした企業は43.1%

来期(4～6月)設備投資を計画している企業は40.4%

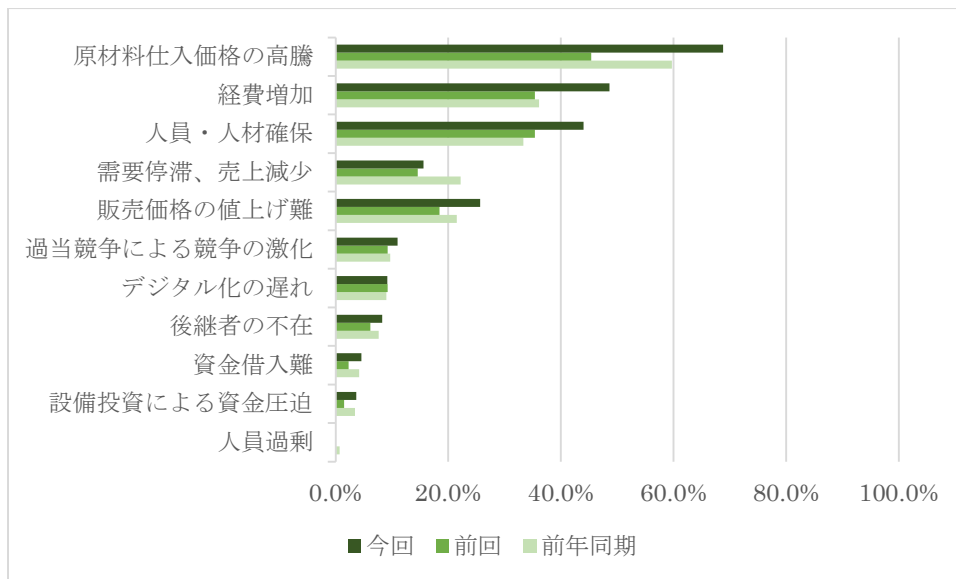
設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



## 《 全体の経営上の問題点 》

今回の調査で、経営上直面している問題点で多かったのは、前回に引き続き『原材料仕入価格の高騰（68.8%）』、次に、『経費増加（48.6%）』『人員・人材確保（44.0%）』が多い結果となりました。

前期と比較すると、『原材料仕入価格の高騰』は23.4ポイント増加、『経費増加』は13.2ポイント増加、『人員・人材確保』は9.0ポイント増加となっています。



## 《 業種別の経営上の問題点 》

	製造業	建設業	卸・小売業	飲食・宿泊業	サービス業
1位	原材料仕入価格高騰	原材料仕入価格高騰	原材料仕入価格高騰	原材料仕入価格高騰 経費増加	原材料仕入価格高騰 経費増加
2位	人員・人材確保	人員・人材確保	経費増加	販売価格の値上げ難 人員・人材確保	人員・人材確保
3位	経費増加	経費増加	需要停滞、売上減少	特になし	後継者の不在

## 《 観光関連の景況 》

観光に直接的に関わる業種及び企業を抜粋し調査しました。

<b>対象事業者</b> 市内の宿泊業、市内の観光関連業、市内の運送業、清水町・幸町周辺の飲食業、 新千歳空港及び周辺の観光関連事業者、支笏湖・モーラップ地区の事業者
---

景気動向

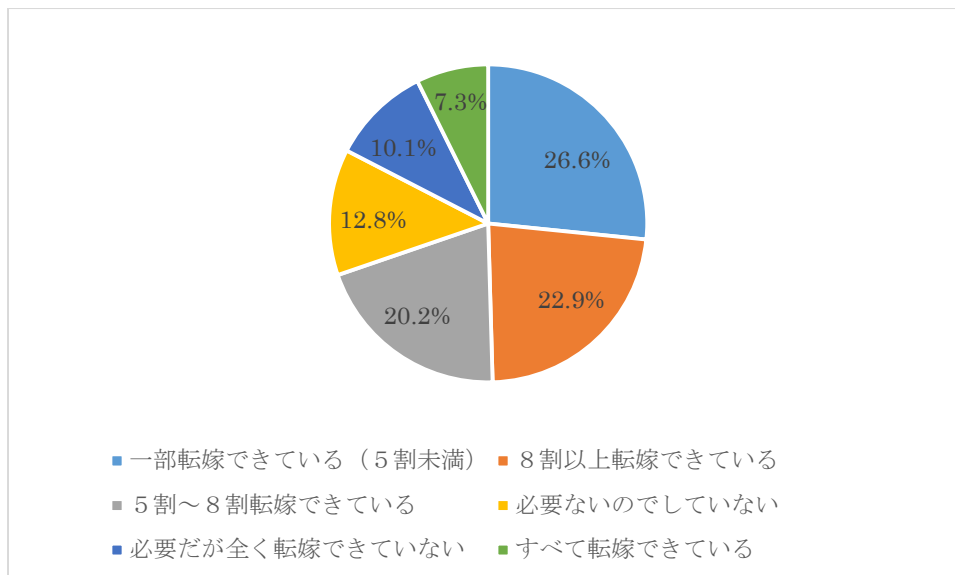
主要DI	前期実績 (10~12月)		今期実績 (1~3月)【前年実績】		来期予測 (4~6月)
業況	14.3	↓	▲27.3 【5.9】	↑	▲18.2
売上	42.9	↓	▲27.3 【17.6】	↑	0.0
採算	▲14.3	→	▲18.2 【5.9】	↓	▲36.4
原材料	▲100.0	↑	▲81.8 【▲94.1】	→	▲81.8
資金繰り	0.0	→	0.0 【▲5.9】	↓	▲18.2
労働時間	0.0	↓	▲18.2 【23.5】	↑	9.1
雇用状況	▲28.6	↓	▲54.5 【▲52.9】	↑	▲45.5

表中の矢印 . . . . . 5ポイント以上の推移を上下矢印（↑・↓）で表示  
5ポイント未満の推移は横ばい矢印（→）で表示

## 《 価格転嫁について 》

価格転嫁の進捗については、「一部転嫁できている（5割未満）」と回答した企業が最も多く、26.6%となった。

一方、「8割以上転嫁できている」と回答した企業は22.9%で、全体としては約半数の企業が価格転嫁に一定程度取り組んでいることがうかがえる。



次に、価格転嫁を実施していない理由として、「顧客離れや売上減少への懸念」が最も多く挙げられた。また、「競合他社との価格競争が厳しい」「取引先や元請との関係上、価格交渉が難しい」といった取引環境上の課題も多くみられた。さらに、「原材料費等の上昇に転嫁が追いつかない」「価格引き上げの根拠となる付加価値を示しにくい」などの意見も挙げられている。

## 《 企業の声 》

今回の調査においても、多くの会員事業者から現在の経営状況や課題、並びに商工会議所に期待する支援策について、さまざまな声が寄せられました。

今回の調査結果で注目すべきなのは、業種別の「経営上の問題点」で「原材料仕入価格の高騰」がすべての業種において第1位を占めた点です。現在、多くの業種で需要の回復に伴い売上高は持ち直しの動きが目立つものの、それに対して「売上は伸びても利益がついてこない」という、厳しい収益状況が調査結果から見て取れます。この背景には、長期化する慢性的な原材料価格の高騰に加え、近年の世界情勢の緊迫化に伴うナフサ（粗製ガソリン）価格の上昇などが重なり、コスト負担をさらに大きくしている原因になっていることがうかがえます。

こうしたコスト負担への対応が求められる中、今回は「価格転嫁の進捗状況」についても調査を実施いたしました。その結果、全体の約半数の企業において一定の価格転嫁が進められているものの、約1割の企業が実際には全く取り組めていないということがわかりました。価格転嫁の障壁として、「顧客離れによる売上減少への懸念」や「取引先との価格交渉の難航」といった取引環境上の課題多く挙げられたほか、「原材料価格の変動が激しすぎて適切な値決めタイミングが追いつかない」といった、価格高止まりや乱高下に起因する苦慮の声も寄せられています。

また、これらコスト面の負担と並び、依然として多くの業種で「人材不足」が深刻な経営課題となっています。人手不足の解消や人件費抑制を目的に、IT導入等による「業務効率化」を進める企業も増えており、これに伴う設備投資関連の補助金情報を求める声が上がっています。

今回の調査では、個人事業主向けや法律改正に関するセミナー等の開催を希望する声も寄せられております。今後の各種セミナーや支援施策については、LINE・HP・会報誌等を通じて情報発信を行ってまいります。

また、専門的な経営課題の解決に向けては、中小企業診断士等のアドバイスを直接受けられる「専門家派遣制度（会員限定）」をご用意しておりますので、ぜひお気軽に当会議所までご相談ください。

本調査にご協力いただきました企業の皆様、ありがとうございました。

次回調査は令和8年7月頃です。引き続きご協力の程よろしく願いいたします。